

創業120年の歴史は、研磨布紙の歴史 研磨・研削を担う〈クラウン〉ブランド

永塚工業株式会社



ISO 9001

ISO 14001

<http://www.crownab.com/>



排熱・排気プラント ISO14001も取得

Company Profile

永塚工業株式会社

住 所 / 〒579-8061
東大阪市六万寺町1-5-37
創 業 / 明治25年
設 立 / 昭和16年7月
資本金 / 1,920万円
従業員 / 50名
T E L / 072-982-3001
F A X / 072-982-3007

■主な事業内容

研磨布紙、研磨ベルト、研磨シートの製造販売、ブラシロール、ホイール、パフの販売

■主な取引先

ステンレスメーカー大手5社、
商社および大手問屋、海外
(直取引)



研磨布紙を応用してブロック塀を演出

当社のセールスポイント

「より高品質に」
不況下だからこそ高まる
ご要望に応えます。



会長 永塚 奎次さん
取締役社長 永塚 隆夫さん

いつの時代も品質は第一ですが、近年の企業は価格競争に走るよりも、生き残りをかけてより高品質な製品を生み出そうと努力されています。研磨布紙はステンレスを始めとする金属加工に欠かせない部材であり、当社はパイオニアとして品質向上等のニーズにお応えできる研磨布紙を追求してまいります。



100メートル規模の研磨布紙プラントを自社開発

7年かけて自社開発した 100メートル級プラント

サンドペーパー、紙やすりは一般にもなじみがあるが、研磨布紙は、より精度が高く工業用に製造されたものを言う。永塚工業は、国内でも数少ない研磨布紙専門メーカーで、最も歴史が古い草分け企業。その製品は王冠マークのヘクラウンブランドとして名高い。

製品は、鉄工や木工での手作業向きシートから、鉄工所で使用される幅数ミリの研磨ベルトもあれば、ステンレスメーカー用の幅1・6メートルにもなる研磨ベルト等がある。これらは基材に研磨材を糊で付着させて製造するが、用途によって内容は細やかに分かれている。基材は布、紙等5種類以上。研磨材はガーネットやジルコニア等複数ある上に、微粒子から小豆粒くらいまで目の粗さが異なるため、営業品目は膨大な数にのぼる。

このように基材が違い、研磨材の厚みが違えば、糊の厚みまで違って

くる。同社は従来の職人頼りから脱して機械化を進めるために、条件が複雑に変化しても一手に製造できるプラントを開発した。開発は平成に入ってからではなく、会長(当時社長)自ら図面を書きスタート。その長さ実に100メートル。まず縮小版プラントを試作して5年の検証を重ね、実際に完成後もサンプル製造の実証で2年を費やし、稼働にこぎつけた時は平成10年を迎えていた。



ステンレス用研磨ベルトは人の背丈ほどもある大きさ

メーカーとして貫く 即納体制と現場主義の営業

近年需要が高まっているのが、ステンレスメーカーで使用される大型のベルトタイプだ。ステンレスは年々

技術が進歩し、紙と変わらない薄さに圧延できるようになった。それには、製造過程で生じる微細な傷やピンホールの研削が欠かせない。研削力の高さも永塚工業ならではの。ベルトの使い始めと終わりでは、仕上がりに大きな差が出てはならない。最初の切れ味をいかに持続させるかが重要だ。

また、同社の大きな特長のひとつに、製品の大多数を常時在庫して、発注があれば即納できる体制をとっていることがある。営業マンは全て最低5年の製造勤務を経ており、得意先への提案や質問にも即対応できる。これらは、問屋ではなくメーカーとして貫く、同社のポリシーである。同社は現在、家庭で手軽にブロック塀をリメイクできるカラフルなシートを開発中だ。もちろん研磨布紙の技術を応用したものだ。社屋のブロック塀にも、耐候性をテストするために貼つてあるが、もう5年になるという。この堅実な姿勢こそ、120年企業が続ける秘訣かもしれない。